

令和2年度 第2回 宇都宮市総合教育会議 議事録

- 1 日時 令和3年3月26日（金） 午後4時～午後5時
- 2 場所 宇都宮市役所14階 14A会議室
- 3 出席者
(構成員) 佐藤市長
小堀教育長，伊藤一委員，伊藤三千代委員，大森委員，檜山委員
(事務局) 青木教育次長，鈴木学校教育担当次長，坂井教育企画課長，
石和総務担当主幹，吉岡学校管理課長，口川学校教育課長
秋田学校健康課長，秋山生涯学習課長，山口文化課長，
掛布スポーツ振興課長，廻谷教育センター所長，
田上教育企画課長補佐，尾嶋教育企画課企画G係長，佐藤教育企画課総括，
黒後教育企画課主任主事
- 4 傍聴者 2名
- 5 議題 令和3年度教育委員会基本方針（案）について
- 6 議事の内容
- (1) 開会
青木教育次長 ただいまから，令和2年度第2回宇都宮市総合教育会議を開会いたします。
す。よろしくお願いいたします。
- (2) あいさつ
青木教育次長 はじめに，佐藤市長からごあいさつをお願いいたします。
- 佐藤市長あいさつ
- 青木教育次長 ありがとうございます。
続きまして，小堀教育長からごあいさつをお願いいたします。
- 小堀教育長あいさつ
- 青木教育次長 ありがとうございます。
ここからの議事の進行については，市長にお願いしたいと思います。
佐藤市長，よろしくお願いいたします。
- (3) 議事
佐藤市長 それでは，議事に入ります。
議事(1)「令和3年度教育委員会基本方針（案）について」，事務局から
説明をお願いしたいと思います。
- 令和3年度教育委員会基本方針案について事務局（総務担当主幹）説明

佐藤市長

ありがとうございました。SDGsについては宇都宮市民にもまだ広く浸透していませんが、実際に実践していることを1から17のゴールに当てはめてみると、できていることは身の回りにたくさんあります。

来年度の教育委員会基本方針は、「質の高い教育をみんなに」を合言葉とし、それぞれの個別方針にSDGsに掲げる目標を紐づけながら、策定していただきました。第6次宇都宮市総合計画も全てのSDGsと関連しており、これからのまちづくりや教育に密接に関わっています。教育というのは、まさに人づくりの根幹であり、「まちづくりは人づくり」、「人づくりはまちづくり」と言われるように、まちづくりを進める上では重要なものと考えております。これから人口が減少していく中、少ない人数で社会を支えていくためには、より高い人間力が必要となってまいります。SDGsの達成やスーパースマートシティの実現により、次世代が軽い負担で済むような持続的なまちづくりを現在目指しており、市長としては今後とも教育委員会と密接に連携を図りながら、教育行政の推進に努めてまいります。

それでは、教育委員会の皆様からも教育委員会基本方針にかかる思いや考えなどそれぞれご意見を伺いたいと思います。

伊藤一委員

私からは「基本方針(3) いじめ防止対策及び不登校対策の強化」についてお話させていただきます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、人々は感染を恐れ、その恐怖感から「感染者は自分とは違うんだ」と捉え、自己の恐怖を和らげようとしており、そのような意識が偏見・差別を生んでいると考えています。したがって誰でもその偏見を持つ可能性があること自体を認識するべきであると思います。教育現場においては、まず教員自身が新型コロナウイルスに限らず、自分に偏見がないか、差別していないかを振り返る態度が必要であります。過去にもさかのぼって自分は偏見を持ち、差別したことがないか思い出してみるべきであろうと思います。私は、中学生時代にいじめられていた同級生について、実際には自分は意地悪をされたことがないにも関わらず、他の同級生の言葉を鵜呑みにして「変な子」、「付き合わない方がよい」と思ったことがあります。今は弁護士の仕事をしておりますが、現在でも偏見を持ちそうになることがあると、正直に申し上げます。世界中でも人種や性別など様々な偏見があることを、多くの方が認識していると思います。

児童生徒の師である教員自身が、弱い自分であることを意識して振り返り、常にあるべき姿を追い求める姿勢を持っていただきたいと考えています。そのような教員の率直な姿が偏見・差別を生まない教育環境づくりのための、子どもに対する最上の教えになると考えています。ここにお集まりの皆様も、小中学生時代にいじめた経験、いじめられた経験が少なからずあるのではないのでしょうか。自身の経験を振り返ることで、児童生徒が直面している状況を察し、寄り添えられる教員を目指していただきたいと考えています。寄り添う中で、解決策を見い出すことができると思います。

伊藤三千代委員

私は「基本方針(2) 成長の基盤となる知・徳・体と未来を生き抜く力の育成」についてお話させていただきます。「宇都宮市学校教育推進計画」に基づき進められている学校教育であります。新型コロナウイルス感染症の感染拡大により想像もしなかった生活の変化が起きている中で、教育現場でも様々な対応が迫られたことと思います。そのような中で、1人1台端末の導入やICT支援員の配置など、教育の充実を目指した取り組みを約1年という短期間で進めてくれたことにとっても感謝しており、その有効な活用にはとても期待をしています。将来的には、端末の活用により自宅でオンライン授業を受ける時代がやってくるのではないかと考えています。小中学校の臨時休業を経た学校再開後は、消毒の徹底やマスクの着用、様々な行事の中止や形を変えての開催など、教職員の現場でのご努力のもと子どもたちは柔軟に楽しく過ごしているのではないかと思います。子どもたちを取り巻く環境の変化は目まぐるしいもので、現在の学校生活では、給食は前を向いて静かに食べることや、友達との距離を常に保って行動すること、大きな声を出さないことなど窮屈な生活を続けていると思います。今年度の小学1年生は皆で向かい合って給食を食べることを知らないのです。数年前では考えもしなかったことです。様々な制約がある時だからこそ、これまで以上に学校という場で集団生活を送ることの大切さをより追求していかなくてはならないと思います。ともに育つことで、支えあい、喜びや悲しみ、苦しみを感じ、思いやることや感謝することを知る義務教育9年間は重要な役割を持っていると思います。来年度導入される1人1台端末を有効に活用しながら、これまでのようにはできないかもしれませんが、今だからできる学校生活を通して、未来を生き抜く強い力を持った宮っ子を育てていただきたいと考えています。そのためにも豊かな感性と情熱をお持ちの教職員の育成と環境整備は不可欠と考えています。新しいものの導入で、現場の負担が増えて、子どもたちと過ごす時間が減ることが無いよう引き続き業務の効率化推進を進めていただきたいと思います。

大森委員

私は「基本方針(3) いじめ防止対策及び不登校対策の強化」のうち、特に不登校対策の強化についてお話させていただきます。昨年10月に文部科学省から公開されました「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によれば、令和元年度の不登校児童生徒の割合は、小学校0.83%、中学校3.94%でありました。栃木県に着目しますと、小学校0.91%、中学校4.25%と高く、47都道府県中、各々13番目、12番目と上位に位置しています。令和元年度子供・若者の意識に関する調査の有識者による考察によりますと、不登校は、ひきこもり、ニート等の諸問題と関連することも指摘されており、適切な対応が求められています。本市においては、学校現場の教職員をはじめ、関係者がチームとなって情報を共有し連携を取りながら、児童生徒の状況に応じ、適切できめ細やかな対応を進めています。不登校になる理由は、学校や家庭等の諸問題が重層かつ複雑に絡み合っていることが多く、栃木県の青少年育成審議会においても指摘されていましたが、問題解決へのアプ

ローチは困難さを極めるとされております。前途ある子ども達を誰一人取り残さないことは、先ほど市長がおっしゃっていましたが教育委員会のスローガンであります、「質の高い教育をみんなに」にも通ずるところであると思います。一層、関係者が連携協力して進められればと思います。

一方、不登校児童生徒が登校しはじめた後、短・長期に限らず休んでいたがために学校での学習についていけずに、再度不登校に陥るケースもみられます。新学習指導要領の総則に「特別な配慮を必要とする児童・生徒への指導」の項目がありますが、その中に不登校児童・生徒への配慮も記されています。1人1台端末が実現されることにより、場所を選ばずに学べる環境も提供可能となります。不登校児童・生徒への学びの機会を提供できる環境を早急に整えていければと考えております。

檜山委員

私からは「基本方針(2) 成長の基盤となる知・徳・体と未来を生き抜く力の育成」についてお話をさせていただきます。令和3年度において大きく変わった点として、「GIGAスクール構想」の加速化に伴う、1人1台端末の活用によるAI型個別学習ドリルソフトモデル事業の実施、オンライン家庭学習の推進が挙げられます。今までになかった学び方が浸透していく期待感が大きく、積極的に活用して学ぶことの楽しさが分かるカリキュラムを期待しています。その反面、スマートフォンやタブレット端末への依存が問題にもなっているため、その運用方法や情報モラル教育に関しては学校現場とのやり取りを十分に行うことが重要であると考えています。また、オンライン家庭学習の推進については、家庭において通信費にかけられる割合は違いがあると思われることから、学びの機会の平等を失わないように、金銭的な支援だけでなく情報が適正に行き渡るような施策の推進が必要であると思います。

心の教育の充実については、心の「たくましさ」を育むために、新たに作成した本市独自の地域教材を用いることで、今まで行ってきました道徳科にプラスアルファするだけではない活用の充実を図っていただきたいと思います。将来的には、独自教材に出てくる人物の活動の様子が動画などで視聴できるとよいのではないかと考えています。

健康・体力の向上については教育においても、自転車のまち宇都宮らしい取組があってもよいのではないかと考えています。自転車に乗り出す年齢は概ね小学校の低学年と考えられることから、安全教育の観点から見ても学校や地域で行われる交通安全教育だけでなく、森林公園や競輪場を活用してみることで健康・体力の向上だけでなく、宇都宮への愛着・親しみなども深まるのではないかと考えています。

小堀教育長

私からは全体的な話をさせていただきます。教育委員会基本方針の「はじめに」において「社会総ぐるみで心豊かでたくましく生きる人づくりの推進を図ります。」と掲げておりますが、教育行政の大きな目的は人づくりであると考えております。市長からも「まちづくりは人づくり」とのお話がありました。どんなにAIやICTなどの科学技術が発展しようとも、

人が人をつくっていくことには変わりはありません。人が人をつくる、このことを念頭に置きながら教育行政を推進していくことが極めて大切なことであると考えております。

佐藤市長

ありがとうございました。皆様から様々なご意見をいただきました。私からも意見や感想を申し上げたいと思います。

伊藤一委員から話がありました、教員の役割についてですが、学校においては大変重要なものであると考えております。子どもたちに寄り添い、様々な児童生徒から話を聞き、悩みを解決したり、喜びを広げ、長所を伸ばすなどそれぞれに合った支援をしていくことが教員の役割であると思います。昨今は恩師という言葉を使う人が少なくなったと感じています。保護者とも信頼関係を築きながら、子どもたちからも恩師と呼ばれるような教員になっていただきたいと思っております。

伊藤三千代委員からはコロナ禍における学校生活についての話がありました。学校における制約に限らず現在は、皆様の日常生活においても大変不便な状況にあると思います。大人は状況に応じた対応を取ったり、不満を漏らしたりすることができますし、多くの経験を積んでおります。しかしながら子どもの場合には、大人に比べうまく対処ができないと思っています。特に、子どもは声を出して楽しむ年齢であり、声を発する環境である学校で過ごしているにも関わらず、給食の時間には、前を向いて静かに食べることが求められています。子どもは放っておくと環境に慣れ、成長にも支障が出てくる可能性があります。コロナ禍を理由にがまんを強いるのではなく、できることは工夫を凝らしながら実践していかねばならないと思います。

また、GIGAスクール構想の推進に当たり、端末の使い方を知ることには大変重要なことであると思います。教育長がおっしゃるように、人が人を育てるのであり、こうした端末は一つの道具としてうまく使っていくことが大事であると考えています。児童生徒と向き合う時間を確保していただくためにもICTを有効活用していただきたいと思います。来年度は「ICT支援員」を地域学校園ごとに概ね1名、合計25名を配置できるよう、予算に計上し議会の議決を得ることができました。こうした専門スタッフを生かしながら、学校としての組織力を高め、児童生徒と向き合う時間を十分に確保していただきたいと思います。

大森委員からの不登校に関する意見については、不登校には子どもたちに理由がある場合だけではなく、家庭に理由があるケースも多いのではないかと考えています。不登校の問題には教育委員会だけではなく、行政全体の統一した考え方が必要であると思います。令和2年度には、親と子どもの居場所づくり事業を2か所で開始しました。親に来ていただき子どもとどう向き合うのか、子どもをどう育てるのか、他の親は子どもとどう接しているのかを見て聞いて習っていただければと考えています。子どもの成長には親の影響が大きいものです。社会全体で親を支援し、普通の家庭生活ができる環境づくりを支援していかねばならないと、大森委員の

ご指摘で改めて感じました。

G I G Aスクール構想については、一人一人に端末を配布することにより、インターネットに接続できる環境となりますことから、フィルタをかけ子どもたちを守ることはもとより、コロナ禍により学校にいけない状況となっても家で安心して授業を受けられる環境が整備できました。インターネットが接続できない家庭には市で支援をさせていただき、誰もが同じ状況で、同じ条件で教育を受けられるような環境を整えたところです。

檜山委員からは健康・体力の話がありました。健康・体力は全ての基本であり体力づくりのためにには体育の授業や地域のクラブ活動などに積極的に参加できる環境を維持することが大切です。話の中で、新たに自転車に関するアイデアをいただきました。競輪場や森林公園は自転車のまち宇都宮の拠点として整備しておりますし、新たに田原方面にサイクリングロードを延伸しています。自動車との接触がなく自転車と歩行者が安心して楽しめるような環境を田川沿いに整備してまいりたいと考えています。小学校においても小学校4年生を対象に自転車の免許制度を実施しておりますが、自転車の正しい乗り方を身に付けられるよう、宇都宮ブリッツェンにも協力いただいています。檜山委員からご提案いただいた健康・体力の向上に向けては、競輪場や森林公園において宇都宮ブリッツェンから指導を受け自転車を楽しみ、おのずと体力が上がる、そのような取組ができればと考えています。

また、宇都宮学については、皆様も副読本をご覧いただいたかと思えます。大変すばらしいものができあがったと感じています。特に歴史や伝統、文化など、誇れるものを知ることができることは本当にすばらしいことであります。皆様にも様々な場面でご活用いただきたいと思います。

教育長からは何かご意見等ありますか。

小堀教育長

来年度に向けましては、中学校体育館への空調機器導入など様々な事業につきまして予算を確保していただきました。中学校の体育館としては県内初の空調機器の導入であり、教育環境が充実して大変ありがたいと感じています。また、ゆいの杜小学校の開校やG I G Aスクール構想の実現など新年度から新たに始まること多くありますが、着実に取り組みながら教育行政を進めていきたいと思えます。

佐藤市長

委員の皆様から何かご意見等はありますか。

伊藤一委員

先日、宇都宮城址公園のVR映像を見せていただきました。VR機器を10台ほど配備すると伺いましたが、実際に体験をすると宇都宮の歴史に関心を持つきっかけとなると思えます。宇都宮学の本も読んでみますと、作り手が楽しんで作成したことが感じられます。バーチャルの体験や本を読むことを通じて、宇都宮の歴史やそこに住む自分を感じることは、自分自身の基盤づくりにも繋がると思えます。

また、檜山委員からの自転車の提案についてですが、子どもたちや市民

に自転車のまち宇都宮を広げるとてもよいアイデアだと思いました。

佐藤市長

宇都宮城址公園のVR映像は多くの方に体験していただきたいと考えています。昔の姿が想像でき、私も大変感激しました。

競輪場の利益はかつて、学校校舎や体育館の整備に大きく貢献していました。今でも競輪特別会計から一般会計に毎年約3億円繰り入れています。

伊藤三千代委員

成人式についてですが、子どもたちが宇都宮への愛着を感じられる行事であり、延期にはなりましたがコロナ禍でも実施していただけることは大変よかったですと感じています。コロナ禍だから仕方ないではなく、これができた、というものを一つ一つ見つけていけたらと、日々子どもたちと過ごす中で考えています。

大森委員

一人一台端末についてですが、先日保護者として開封作業に参加させていただきました。約800台が一度にトラックで届き、その3分の1を開封しました。子どもたちに端末を渡しに行った際には、子どもたちは期待でいっぱい、これからどんな教育が、僕たち私たちを待っているのだろうと目を輝かせていました。そのような姿を見て、教育の在り方が変わるのだ、子どもたちはとても期待しているのだ、と肌で感じました。素晴らしいエポックメイキングだと思います。

小堀教育長

教育センターでは、一日あたりの端末の使用回数などについての目標を作っている最中で、今後学校にも示す予定です。

佐藤市長

台湾はICTをうまく活用し、感染防止対策を講じており、新型コロナウイルスの封じ込めに成功しています。日本は遅れを取っていますが、GIGAスクール構想については国において早急に対応していただきました。

また、SDGsを教育にも結び付けることはとてもよい取組であります。目標の達成に向け意識することができ、チェックをすることでゴールを見定めることができます。

檜山委員からは自転車についてのご提案をいただきましたが、ご自身では自転車に乗られているのでしょうか。

檜山委員

まちなかで生活していると自転車は必需品で、市内の異動は大体、自転車を使用しています。

佐藤市長

檜山委員のお店から宇都宮駅までは高低差がありますね。

檜山委員

二荒山神社の鳥居の一番上と私のお店が同じ位の高さです。宇都宮駅はさらにもう一段下がります。オリオン通りも東武側から日野町側を見ると高低差があります。

佐藤市長

宇都宮駅から檜山委員のお店まで歩くと1マイル程度ありますが、特に自転車の場合は登りが大変です。

ゆいの杜小学校は、始業式、入学式の順番で行事を実施するのですか。

小堀教育長

4月8日に開校準備の会と開校式を、4月12日に入学式を実施する予定となっています。

佐藤市長

新設校の開校式に出席できることは、少子化の中、考えもしなかったことですので大変うれしく思っています。これで小中学校は94校になりますが、児童生徒が増えプレハブで対応している学校が、小学校で11校、中学校で9校あると記憶しています。少子化の中、児童生徒が増えていることは素晴らしいことであると思います。今泉小学校は大幅に児童数が増えています。駅東にマンションができ今後も児童が増えることが予想されます。宇都宮は6階建て以上の建物の建築確認が増えており、地価上昇率も北関東で一位です。今後も高層マンションなどが建設されていくと思います。LRT沿線の今泉小学校をはじめ、峰小学校や陽東小学校も児童数が増えるでしょう。平石中央小学校も今現在は児童数が少なくなっていますが、駅前学校となるためこれからどんどん児童数が増えてくると思います。

教育長

平石中央小学校は給食室の関係で、児童がランチルームで給食を食べていることから、児童数は100人程度が限度であります。児童数が増えた場合には、給食を各教室まで運べる施設などを検討する必要があります。

佐藤市長

増えた場合の工事や予算は嬉しいことです。市町村によっては、プールの改築ができないため、プールを廃止し、バスを借り上げて近隣のスポーツジムを借り、月に1・2回通っているという話を伺ったことがあります。

さて、まだまだ皆様から御意見をいただきたいところですが、時間の関係上、ここで議題に係る意見交換は終了したいと思います。

(4) その他

佐藤市長

次に「その他」になりますが、教育委員会の皆様から何かございますか。

それでは、以上で会議を終了し、進行を事務局に戻します。

(5) 閉会

青木教育次長

市長、ありがとうございました。

以上で、令和2年度第2回宇都宮市総合教育会議を閉会いたします。

ありがとうございました。